

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	齋藤 貴明	経営	H1102028
	②	大川 貴子	福祉	H2301029
	③	猪股 久美子	福祉	H2301111
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	玉堤小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	158-0087		
	所在地	世田谷区玉堤2丁目11番1号		
	TEL	03-3701-3424		
事業所代表者氏名	事務局長 土屋 雅照			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 11 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 13 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 11 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 29 日			
評価合議日	2025 年 9 月 29 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

<p>1</p>	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)児童の安全な遊び及び交流の場の提供 2)自主的な遊びの活動への意欲及び態度の形成 3)学年を超えた児童間の遊びを通じた交流を促進し、児童の創造性、自主性及び社会性を養うこと 4)学校、家庭、地域等と協力しての遊びの環境づくりへの支援 5)児童の健全育成上必要な活動</p>
<p>2</p>	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>児童にとって ①命が守られ成長出来る ②自身にとって最も良いこと ③意見を表明し参加出来る ④差別のないこと、を実践し、献身的な責任感の強い人物</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>自ら考え行動するとともに、物事を共有することを忘れずに、決められたことに対しては一致し物事に邁進出来る行動力のある人物。</p>

調査対象

登録児童全員を対象とした。

調査方法

Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数

134

共通評価項目による調査対象者数
 共通評価項目による調査の有効回答者数
 利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
134	0	134
50	0	50
37.3	0.0	37.3

利用者調査全体のコメント

調査対象者134名のうち、50名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」「職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」「職員は話し相手や、相談相手になってくれるか」「病气やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、50名全員が「大変満足、満足」と回答している。また、「工作のイベントが増えると嬉しい」「楽しく過ごせている」「もっと本を増やしてほしい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	47	3	0	0
47名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「イベントがあって楽しい」「ボール遊びができて楽しい」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	43	6	0	1
43名が「はい」、6名が「どちらともいえない」と回答している。また、「大体話を聞いてくれる」「聞いてくれる時もあればそうでない時もある」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	41	8	1	0

41名が「はい」、8名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「たまにアイスも出るから嬉しい」「いつもおいしいし楽しみ」「もっとたくさん食べたい」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	23	12	0	15
23名が「はい」、12名が「どちらともいえない」と回答している。職員が子どもの意見を尊重していると感じる子どもが一定程度みられる一方で、その実感に差がある様子がうかがえる。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	44	3	0	3
44名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「説明がわかりやすい」とのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	32	10	4	4
32名が「はい」、10名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」と回答している。また、「いつもきれいで遊びやすい」「使ったものは自分で片付けてほしい」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	37	9	1	3
37名が「はい」、9名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。職員の接遇や態度が適切である様子がうかがえる。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	43	4	0	3
43名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「ケガをしたらすぐ手当をしてくれる」「特にケガをしたことはない」などのコメントがあがっている。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	44	2	0	4
44名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「ケンカはあまりない」「何かあればすぐに来てくれる」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	43	4	0	3
43名が「はい」、4名が「どちらともいえない」と回答している。また、「話をよく聞いてくれる」「先生は忙しそう」などのコメントがあがっている。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	35	5	1	9
35名が「はい」、5名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「守ってくれる」「相談したことはない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	42	2	0	6
42名が「はい」、2名が「どちらともいえない」と回答している。また、「ちゃんとしてくれる」などのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	20	6	5	19
20名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	区の放課後児童健全育成事業の運営方針に基づき目標を立て、周知を図っている 区の放課後児童健全育成事業の運営方針に基づき、クラブの目標を定めている。具体的には、「児童の健全育成を目指し、遊びを通して友だち関係等を大切にする」「けじめのある行動・態度をとり、安全安心に活動ができるように支援する」「発達年齢に即して自立の援助をする」「日常の外遊びを充実させる」といった年間目標を立てている。毎月定例のロングミーティングや日々のミーティングで、職員にこれらの方針や目標の浸透を図っている。さらに、保護者に対しては、新BOP日より(月1回)や、ポスター掲示などにより周知を図っている。	
	運営層がリーダーシップを発揮しており、職員全体で同じ方向性を共有している 児童館長、事務局長、児童指導らが中心となって運営をリードしている。その中でも、児童指導2名は経験も豊富であり、リーダーシップを発揮しながら、指導員全体が方向性を共有して業務に邁進できるようにしている。今回の職員自己評価でも、組織運営に対する職員の肯定的な回答やコメントが多く、まとまりのある職員集団であることがうかがわれる。毎月のロングミーティングには、会計年度任用職員である指導員も含めたメンバーにより、活動の振り返りをしながら、より良い運営や子どもへの関わりについて熱心に議論を重ねている。	
	意思決定の手順が定められており、職員間での情報共有を重視している クラブ内でのミーティング→児童館長との会議→所管課(児童課および地域学校連携課)での決定という意思決定の手続きが定められている。決定事項や重要事項などは、日々のミーティングで職員に周知している。ミーティングにはプレイングパートナーも参加し、時間設定も柔軟に行うことで参加しやすくする配慮をしている。職員全体での情報格差をなくし、特に、配慮が必要な子どもへの対応などで、職員間で統一した対応が取れるようにしている。保護者には、メールでの一斉送信や新BOP日より決定事項を伝えている。必要に応じて手紙も渡している。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>風通しの良い雰囲気があり、保護者・職員双方の声を積極的に取り入れている</p> <p>クラブでは、個人面談やお迎え時の会話などを通じて保護者の意見や要望を丁寧に把握している。遊びの種類や行事内容に関する意見を聞き、可能な範囲で運営に反映している。さらに、保護者から家庭で使わなくなった物品の提供を受けるなど、協力的な関係を築くことができている。職員の意向については、日々のミーティングで活発に意見交換を行い、業務改善や行事運営に生かしている。意見を否定せずに受け止める風通しの良い雰囲気がある。保護者・職員双方の声を取り入れながら、子どもたちがより安心して過ごせるクラブ運営を目指している。</p> <p>各種の会議などで地域の関係者と意見交換しながら、クラブのあり方を検討している</p> <p>クラブでは、児童館主催の会議や連絡協議会などを通じて地域の状況を把握し、学校関係者や地域団体と意見交換を重ねながら地域ニーズを収集している。連絡協議会ではクラブの取り組みについても発信している。こうした機会を通じて寄せられた意見をもとにクラブ運営の課題を整理し、「直ちに改善できること」「中長期的に取り組むこと」などに区分して対応を検討している。運営層を中心に、学校との連携強化や地域との協働体制の構築を進め、地域の福祉ニーズに即した支援を展開できるよう努めている。</p> <p>「新BOP運営基準」に定められた年間計画を作成し、取り組みの評価と反省もしている</p>		

区における議論を踏まえ、世田谷区子ども・若者総合計画が策定されており、関連する項目がクラブ運営に反映されている。また、放課後児童クラブ運営指針を念頭に置きながら、「新BOP運営基準」に定められた年間計画を策定しており、同計画に基づいた事業推進を図っている。年間計画には、月ごとの行事や遊びの内容を明記し、計画的な運営ができるようにしている。年間計画に基づいた活動と、各種の行事等の計画・成果・反省について職員間で共有している。三学期には年間反省も実施しており、指導員の更新時期に合わせて各自の意見を聞いている。

3 カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

職員が遵守すべき事項について、研修受講やミーティングを通じて理解を深めている

クラブでは、職員が社会人として、また子どもの支援に関わる者としての法や倫理を理解し、実践できるよう取り組んでいる。会計年度任用職員は基礎研修を必ず受講し、公務員倫理、情報セキュリティ、個人情報保護などの基本を学んでいる。また、「組織管理の視点からのコンプライアンスに関する問題事例」などの内容を共有し、遵守意識を高めている。さらに、新BOP事務局長会議資料の要点をミーティングで周知し、倫理的配慮の重要性を再確認している。他クラブで発生した不適切事例についても情報共有と注意喚起を行い、全職員で防止に努めている。

保護者からの意見等に適切に対応し、子どもへの不適切な関わりがないようにしている

クラブでは、保護者との対話や連絡協議会などを通じて意見・要望を把握し、組織的に速やかに対応している。「新BOP運営基準」には要望・苦情対応の手順が明記されており、これに基づき適切な処理を行っている。虐待防止についても職員間で周知を徹底し、日々のミーティングで注意喚起や振り返りを行い、不適切な言動が生じないよう意識を高めている。また、運営方針チェックリストにより職員の行動を定期的に点検している。家庭で虐待の疑いがある場合は、学校や関係機関と連携し、子どもの安全を最優先に支援体制を整えている。

地域との協働体制づくりを進めながら、行事参加などを通じて交流を深めている

クラブでは、地域に開かれた組織づくりを重視し、「新BOPたより」(月1回)を通じて活動内容を保護者や地域関係者に発信している。また、玉堤小新BOP連絡協議会を通じて学校・地域関係者へ情報を共有し、透明性の高い運営に努めている。さらに、3か月に1回程度の管轄児童館管内の事務局長会に参加し、新BOP運営や地域課題に関する情報交換を行い、協働体制の構築を進めている。学校や児童館が主催する「あそべ村」「玉堤フェスタ」などの行事にも積極的に参加し、地域とのつながりを深めながら、共通課題への理解と連携を強化している。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○●●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>けがやけいれん発作などの対応に万全を期し、日々の点検も確実に実施している</p> <p>クラブでは、「新BOP運営基準」および安全対策マニュアルに基づき、事故・感染症・災害等のリスクに対応した安全管理を徹底している。けがやけいれん発生時などの緊急対応手順は抜粋してクラブ内に掲示し、職員が即時確認できるようにしている。また、子どもの安全確保を目的に「新BOP安全対策チェックリスト」を活用し、開始前・運営中・終了後の各段階で点検を行い、日誌に記録している。体調不良やトラブル等も詳細に記録し、事故発生報告書により再発防止に努めている。これらの取り組みを通じ、安全意識の向上とリスク低減を図っている。</p> <p>計画的な訓練などに取り組んでいるが、より実効性の高い対策の充実に期待したい</p> <p>「新BOP運営基準」に基づき、クラブでは年2回以上の避難・消火訓練を実施し、災害や事故に備えた体制を整えている。安全対策マニュアルには災害時の対応が明記されているが、特に水害リスクの高い立地であることから、さらなる防災強化の必要性を認識している。また、学校等の関係機関との連携体制の強化も課題としている。例えば、不審者対応策として東門を閉鎖し西門のみを使用するなどの取り組みを進めているが、運用徹底には改善の余地がある。今後も学校や関係団体と協力し、より実効性の高い防災・安全対策の充実に期待される。</p> <p>子どもや家庭に関する個人情報を適切に管理し、情報漏えい防止に努めている</p> <p>クラブでは、「新BOP運営基準」に基づき、子どもや家庭に関する個人情報を適切に管理している。紙文書は書庫で施錠管理し、不要となった書類は学校のシュレッダーで処理している。電子データについては、区のネットワーク上で厳重にアクセス管理されており、職員ごとに個人パスワードを設定している。パソコンの使用も区の情報セキュリティ基準に準拠しており、外部へのデータ持ち出しを防止している。情報の収集から保管・廃棄まで明確なルールを定め、職員への周知と徹底を図ることで、情報漏えい防止と安全な情報の取り扱いを実現している。</p>		

5			カテゴリ-5	
職員と組織の能力向上				
サブカテゴリ-1(5-1)				
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる			○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している			○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している			○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している			○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている			○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている			○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる			○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている			○非該当
サブカテゴリ-2(5-2)				
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している			○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている			○非該当

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリー5の講評

プレイングパートナーは独自に採用し、キャリアアップを目指す職員のサポートをしている

正規職員である児童指導および会計年度任用職員の採用は区が実施し、プレイングパートナーはクラブで採用している。採用時には人柄や子どもへの関わり方を重視し、人づてでの採用も行っている。児童指導や会計年度任用職員の人事評価は児童館長が実施しており、公正な評価と処遇の連動を図っている。指導員から児童指導を目指す職員に対しては、キャリア形成を支援し、必要な研修や経験の機会を提供している。今後も、クラブが求める人材像を明確化し、長期的な視点で人材育成と安定した人員採用をしていくことを目指している。

職員が必要な研修を受講できるように調整を図り、学びの成果を活かしている

クラブでは、勤務形態を問わず全職員が研修を受講できるよう体制を整えている。区が提供する各種研修(救命救急、接遇向上、アレルギー対応、放課後児童指導員講習など)について、勤務調整を行い参加を促している。受講状況は「指導員対象研修受講一覧表」で管理し、内容と実施月を記録している。受講後は研修結果報告書を提出し、学んだ内容を整理・共有することで、職員間の学びを組織的に活かしている。また、ミーティング等で日々の気づきや工夫を話し合い、支援や運営の改善につなげる仕組みを構築している。

児童指導員を中心にチームとして連携し、意見交換を重ねながら子どもに関わっている

児童指導を中心にチームとして連携し、意見交換を重ねながら一体的に子どもへの対応にあたっている。日々のミーティングでは前日の出来事を振り返り、活発な議論を通して対応方針を共有している。また、指導員だけでなくプレイングパートナーの意見も尊重し、「本日の振り返り」で改善点や提案を聞き取り、運営に反映している。職員間の人間関係は良好で、働きやすい職場環境が維持されている。勤務時間の管理も徹底しており、超過勤務は基本的に行わない方針とすることで、心身の健康を守りながら安心して働き続けられる体制を整えている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

児童の健全な育成を目指し、遊びを通して友だち関係や物を大切にす

【取り組み結果の検証と今後の方向性】

- ①自由遊びや話し合いを大切に、意見を出せる子どもが増えた。低学年でも言葉で伝えられる姿が見られた。ニーズにあった工作や行事を実施し、達成感や自己肯定感の向上に繋がった。今後は、みんなで楽しめる場を作るために、相手に伝わる表現の仕方や、消極的な子どもの意見を受け止める雰囲気づくりを続けていく。
- ②衛生管理を意識できる子どもが増えた。楽しく遊べるようにルールを守り学ぶ、自主的に行動できる場面が見られた。今後は、忘れ物などの課題があるため、保護者にも協力を仰ぎ、課題解決に努めていく。
- ③日々の関わりを大切に、トラブル時にはお互いが納得できるような解決を目指した。その結果、学年が下の子を気遣う姿や、困っている友達に声をかける姿が多く見られた。今後は、感情コントロールが苦手な子どもが気持ちをコントロールしたり、語彙を増やしていくことを課題とした。
- ④集団遊びを楽しめるようになったり、他の子と気の合う関係が作られた子が多かった。今後は交友関係を広げ、みんなが居心地の良い環境づくりを目指す。

目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

クラブでは、学童の登録者数が増え続ける一方で施設が狭隘であったり、子どもや家庭環境の変化にも対応できるよう、「誰もが過ごしやすい居場所づくり」が必要となっている背景があった。そのため、「世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針」の理念(子どもが安心して、楽しく・自由に遊べる環境のもとで、生きる力と主体性を伸ばし、ひとりひとりの今の成育(子どもの成長と育ち)を支えます)に基づき、上記の目標を設定した(Plan→Do→Check→ActionのP)。

目標達成のため、①児童が自分の気持ちを表現し実現できる場を作っていく、②新BOPでの生活ルールをしっかり身に付け、きちんと守れる児童を育てる、③相手の立場も考えられる思いやりの心を育てる、④友だちと関わり遊べる力を育てる、という取り組みを進めてきた(同D)。

取り組みの結果を検証し、各項目における一定の成果を確認するとともに、次年度の課題を設定した(同C)。

引き続き、子ども一人ひとりの様子を見ながら、抱えている課題などを把握し、保護者にも協力を仰ぎながら改善への取り組みを進めている(同A)。

PDCAサイクルに沿った取り組みが実践されている。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

子ども達の自立支援に向けて、発達年齢に即した自立の援助をする

【取り組み結果の検証と今後の方向性】

①自分の持ち物を管理してもらうため、日々の声かけやポスターの掲示で意識付けを図った。片づけられていないものを、気づいた子が率先して元に戻したり、助け合う姿が見られた。引き続き取り組みをしているが、考えの異なる子どもへの声掛けの仕方などが課題となっている。
②決められた時間に行動できるよう、時計を見て活動するように心掛けた。子ども同士で声を掛け合って活動する姿が見られた。決められた時間に行動することで、良い体験ができるような工夫を日々用意した。遊びに夢中になって切り替えが難しい子どもが多いため、引き続き気持ちよく活動できるようにしていくことが課題となっている。
③思いやりを持って周りの人に優しくし、仲良く過ごすため意図的に交流の場を作り、遊びや協力が必要な活動を増やした。トラブルの際に自分の気持ちを伝えたり、相手に譲る行動が多く見られた。譲る子と譲らない子の差も大きいため、譲りがちな子どもが自身を持って活動できるような支援を行っていく。

目標の設定と取り組み	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

学童の登録は基本的に3年生までであり、クラブでは、学童を卒所していったその後の生活も考え、主体性や自己管理能力を育むことを目標とした(Plan→Do→Check→ActionのP)。
目標達成のために日課の中で、①自分の持ち物を管理してもらう、②決められた時間に行動できる、③思いやりを持って周りの人に優しくする。仲良く過ごす等の取り組みを進めてきた(同D)。
取り組みの結果を検証し、各項目における一定の成果を確認するとともに、次年度の課題を設定した(同C)。
課題解決のための方法を模索しながら、引き続き取り組みを進めている。子どもの特性により、難しい面もあるが、職員による粘り強い関わりや支援の継続に期待したい(同A)。
PDCAサイクルに沿った取り組みが実践されている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>学童クラブの情報が、多様な手段で保護者や地域に丁寧に伝えられている</p> <p>区のホームページからクラブに関する情報や書類を入手できるほか、クラブや児童館での配布、保育園・幼稚園への掲示なども行い、幅広く情報提供している。また、定期的に発行されるお便りでは、職員紹介や行事の様子、子どもの活動の様子が丁寧に書かれ、手書きの部分も残すことで温かみを感じられる内容になっている。これにより、保護者が学童クラブの日常を身近に感じやすくなり、理解や信頼が深まっている。長年の活動を通じて、地域や保育園関係者にも自然に周知されており、クラブの存在が地域に知られている。</p> <p>施設見学や申請時に丁寧に対応し、保護者の安心と信頼を高めている</p> <p>施設見学を随時受け付ける体制を整えている。また、学校説明会や就学時健診では学童クラブの案内を配布するなど、保護者が情報を得やすい工夫を行っている。特に、子ども自身が自分で通うことや、親子で登下校の時間を調整することなど、クラブを利用する際のポイントについて具体的に説明し、理解を促している。申請書の受付時には、書き方に関するアドバイスも行い、入会までのやり取りを通して職員と保護者の信頼関係を丁寧に築いている。これらの取り組みが、保護者の安心感とクラブへの信頼向上に寄与している。</p> <p>複数の伝達手段を組み合わせることで、より広く周知が図れると考えられる</p> <p>クラブに関する情報を一方的に伝えるだけでなく、保護者との対話を通じた丁寧な対応を大切にしており、誠実な姿勢が感じられる。情報ツールを活用した発信にも取り組み、必要な情報が保護者や関係者に届くよう工夫している。しかし、学童クラブ内のツールだけでは情報が一部にしか伝わらないという課題もあり、今後は学校のシステムなども活用して発信体制を強化することも必要と思われる。複数の手段を組み合わせることで、より多くの人にわかりやすく情報を届けられるようになることが期待される。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入会時の丁寧な説明と相談対応で、安心して利用できる環境を整えている</p> <p>入会説明会は土曜日、平日午前中や17時以降など、保護者が参加しやすい時間帯に設定し、日程が合わない場合には個別に対応している。説明は、具体的なエピソードを交えてクラブでの生活をイメージしやすく工夫されており、子どもや保護者が自分事として理解できるよう配慮されている。また、見学や申請書提出、入会までの過程では、「なんでも相談してください」という姿勢を大切にし、保護者や子どもの小さな困りごとにも寄り添った対応がなされている。利用開始時点から、信頼関係の構築と安心して利用できる環境づくりが進められている。</p> <p>子ども一人ひとりに寄り添い、安心して新しい環境に適応できるように支援している</p> <p>環境変化による子どもへの影響を緩和するため、多面的な支援が行われている。上級生との体力差などを考慮し、必要に応じて1年生のみで遊ぶ場を設けるなど、子ども同士の関係性に配慮している。配慮が必要な子どもに対しては、事前に就学前情報や保護者・学校からの情報を基に支援方法を検討し、原則1対1で対応している。また、仲間に入りにくい子どもには職員が間に入り交流を支援するなど、子ども一人ひとりに合わせた丁寧な対応がなされている。子どもが安心して新しい環境に適応できるように支援している。</p> <p>子どもに合わせた支援と情報共有で、安心して生活移行できる体制を整えている</p> <p>個人面談やお迎え時のやり取りを通じ、子どもの様子や成長を保護者に伝えている。さらに、手紙や日々のコミュニケーションを通じて、細やかな情報共有と安心感の提供に努めている。さらに、4年生以降の生活に備え、日常からBOPへの移行を意識した支援を行い、自立に向けて一人で過ごす時間についても話し合っている。「短時間や明るい時間帯の利用」など、具体的なアドバイスや状況確認を行い、身近な目標を設定しながら励ますことで、子どもも保護者も安心して学童生活や卒会後の生活への移行を迎えられるようにしている。</p>		

サブカテゴリー3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(0000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(000)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリー3の講評			
日々の記録や職員間の共有を通して、子どもに応じた柔軟な支援計画を進めている 子どもの成長目標を立て、一人ひとりに合わせた柔軟な対応が行われている。特に、配慮が必要な子どもについては、6年間の在籍を見通した長期的な支援を意識し、初年度から日々の記録や報告を行い、職員間で共有しながら支援のあり方を探っている。保護者との日常的なやり取りを通して、子どもの状況を把握し、育成支援計画に反映している。さらに、運営方針チェックリストを活用して学期ごとに職員が振り返りを行い、全体の方向性を確認する仕組みが整っている。子どもの実態や保護者の思いを踏まえた計画づくりが、日常の中で自然に行われている。			
子どもの記録を職員間で丁寧に共有し、子どもへの支援や家庭との連携に活かしている 子ども一人ひとりについて個人記録用紙を整え、担当職員が分担して記録している。記録は年3回程度行われ、子どもの日々の様子や成長の変化、支援の内容が具体的に記されている。職員ミーティングでは、記録をもとに一人ひとりの状況を共有し、支援の方向性を確認し合う時間が設けられている。また、同じ子どもに関わる職員同士の情報交換から、新たな気づきや支援の工夫が生まれている。個人面談やトラブル時の家庭とのやり取りも同一ファイルで共有され、情報が整理され活用しやすい仕組みとなっている。			
ミーティングや記録を活用し、子どもの状況を職員で共有して支援に反映している 子どもに関する情報は、ロングミーティングや日々の短時間ミーティングを通じて職員間で丁寧に共有されている。ミーティングでは当日の流れや前日の出来事、児童指導からの注意点を話し合い、各職員が状況や対応を出し合うことで多面的に理解できるよう工夫されている。その上で、児童指導がまとめや支援の方向性を示している。短時間勤務の職員も参加しており、全員で情報共有を進めている。さらに、内容はノートに記録され、特に共有が必要な情報は、回覧や印刷物で配布されるなど活用しやすい工夫がなされている。			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>職員全員でプライバシーに配慮し、書類確認や日常の工夫を通して支援に活かしている</p> <p>外部とのやり取りについて、要配慮児童は書類で署名・捺印を確認し、巡回指導などに活用している。その他の場合も、必要に応じて適切に対応している。着替えなどの場面では鍵のかかる部屋を使用するなど、日常生活の場面で子どものプライバシーを守る工夫が重ねられている。お手紙や連絡でも、重要な情報が漏れないよう注意し、必要に応じて電話や文書を使い分けるなど、きめ細やかな対応がなされている。職員全員が共通の認識を持ち、日常の支援において子ども一人ひとりに配慮した取り組みが継続的に行われている。</p> <p>子どもの意見を尊重し、解決策を一緒に考え安心して過ごせる環境を整えている</p> <p>子どもへの意見聴取をできるだけ行い、困ったことがあれば伝えるよう日常的に声を掛けている。また、自分が嫌なことは相手も嫌であることを伝えるなど、全体への注意喚起も行っている。トラブル解決の際は、まず子どもの気持ちを受け止め、互いの考えをすり合わせながら解決の方法を一緒に考えるように対応している。子どもがいくつかの選択肢から自分で方法を選べるよう配慮しており、一人ひとりの意思を尊重している。さらに、家に帰る前にトラブルを解決できるよう心がけるなど、子どもが安心感を持って過ごせるように努めている。</p> <p>職員全員で子どもの権利とプライバシーに配慮し、家庭との連携に活かしている</p> <p>トラブルが生じた際や子どもの様子を伝える場面では、保護者同士の関係性にも十分に配慮しながら、双方の家庭に対して事実を正確かつ丁寧に伝えるよう工夫している。また、クラブに在籍する児童のリストを保護者に提供しないなど、個人情報の取り扱いにも慎重で、情報管理に対する意識が職員全体で共有されている。さらに、お迎え時や個別の話し合いでは、話す場所やタイミングに配慮している。子どもの権利やプライバシーの保護を大切に考える考えが職員全員に浸透しており、日常の中で丁寧な対応が実践されている。</p>		

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化 サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
入会や安全対応の手順を整備し、職員で共通理解のもと運用している 入会に関する手順書や基準が整備されており、毎年、保護者の意見や職員からの意見を踏まえて更新している。これらは担当課による入会申請説明会などで共有され、各クラブで活用されている。また、安全対策や職場倫理、職員の役割など、業務の一定水準を保つ内容に加え、入会手続き、児童のトラブル対応、アレルギー児への配慮など、現場に即した具体的な対応方法も整備されている。職員全員が共通理解のもとで活用しており、組織全体で統一した対応が日常的に行われる体制が整っている。	
事故や災害への対応手順を整え、職員全員で子どもの安全を確保している 安全対策マニュアルには、事故発生時の対応や児童のけが、不審者対応、地震・火災・風水害への対応など、現場に即した具体的な内容が記載されている。また、児童トラブル対応のフローチャートやアレルギー児へのおやつ提供対応なども明示され、職員が統一した方法で業務を行える体制が確立されている。さらに、業務日誌では活動前、活動中、活動後に分けて施設の状況や遊具の点検、不審者の有無、施設状況など細かい項目に沿った確認が行われており、安全管理が日常的に徹底されている。	
日々の意見や要望を職員で丁寧に関わり、クラブ運営や業務改善に活かしている 日常の会話や個人面談、運営方針チェックリストなどを通して、保護者や子どもの希望、職員からの意見を丁寧に把握している。日々のミーティングでは、遊びの内容や業務上の要望を共有し、業務の見直しや改善につなげている。個人情報や鍵のかかる棚に保管し、手順書やマニュアルはいつでも確認できる場所に設置するなど、情報管理や業務の標準化にも配慮されている。また、父母会では保護者が意見や要望を自主的に集約し、それがクラブ運営の改善に反映されるなど、保護者との連携も重視している。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	
		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29 / 29
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している		○非該当
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの意見を聞きながら異年齢がお互いに認め合い、協力できるよう支援している</p> <p>異年齢の子ども同士が自然に協力し合える環境づくりが実践されている。昨年度まで職員が主導していた遊びの内容も、今年度からは子どもたち自身が希望を伝え、多数決で決めるなど、主体性を尊重した取り組みが進んでいる。体育館での遊びでは、遊ぶ前に子どもたちの意見を取り入れて活動内容を決定している。高学年には低学年の支援を促す役割を担わせることで、頼られる関係性が育まれており、困っている子への優しい支援が日常的に行われている。良い行動は全体の前で認めほめるようにし、子どもたちの自己肯定感が育てられている。</p> <p>学校との情報共有や、子どもの行動の記録を取ることで発達過程の把握に努めている</p> <p>入会時には「入会申請書」や「児童票」を用いて基礎情報を収集している。日々の子どもの行動記録を取り、育成の手掛かりとして活用することで、子どもの全体像を把握する体制が整えられている。特に気になる子どもについては、小学校と速やかに情報を共有し、担任と連携して支援の方向性を確認している。職員間のミーティングでは、子どもの成長や困りごとについて継続的に話し合いが行われている。転校生についても学校と共有ができていて、配慮が必要な子どもについて区の巡回指導を受けるなど、外部機関との連携も積極的に図られている。</p> <p>子ども同士のトラブルの解決や、配慮が必要な子どもに職員が言葉を補う支援をしている</p> <p>集団生活の中で生じるトラブルへの対応において、子どもの意見に耳を傾けながら感情の整理を促す支援が実践されている。小さなけんかなどには職員が過度に介入せず、子ども同士が自分たちで解決する力を養うよう援助している。子どもの言葉が足りずに手が出てしまう場合は、場所を移動して1対1で双方の話を聞き、状況を把握している。けがにつながった場合は保護者に連絡している。また、発達面で配慮が必要な子どもに対しては、職員が仲立ちとなって遊びに参加できるよう支援し、言葉による補足を通じて他の子どもとの関係構築を促進している。</p>			
2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している			
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している		○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している		○非該当
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している		○非該当
評価項目2の講評			
<p>日常の援助を通じて子どもたちが自由に遊んでおり、生活と集団の豊かさが育まれている</p> <p>BOP室は2階と3階に分かれている。ブロックやボードゲームなど子どもが好む遊具を用意し、それぞれが自由に選んで遊べるよう配慮されている。室内遊びは座卓で座って遊ぶことが守られている。子どもの人数が多く、宿題を行う場所が足りないこともあるが職員の声かけにより譲り合いながら過ごしている。体育館や校庭での遊びでは、子どもの意見を取り入れながら活動内容を決定し、ホワイトボードに予定が書かれていない日は自由遊びとして子ども同士が遊びを考えている。時間や人数の調整を行いながら、安全面にも配慮した運営がされている。</p> <p>異年齢の関りが活発に行われており、年下の子どもも安心して遊べるよう配慮されている</p> <p>継続的に行われる集団遊びの中で、子どもたちは自然とルールを覚え、遊びを通じて社会性を育てている。特に高学年の子どもが低学年にルールを教えたり、一緒に遊んだりする姿が見られ、異年齢間の関わりが活発に行われている。体力差のあるボール遊びでも、恐怖心を与えないよう配慮した遊び方がされており、安心して参加できる環境が整っている。こうした取り組みにより、子どもたちは互いに学び合いながら、学年を超えて遊びを楽しむことができ、集団全体の生活が豊かに展開されている様子がうかがえる。</p> <p>基本的な生活習慣が身につくよう、子どもの自立目標の確認表が作られ家庭と連携している</p>			

入退出時やおやつの挨拶をしっかりすることを指導している。ホワイトボードを見てその日の予定を確認するといった習慣も定着させている。体調面で気になる様子がある場合には、職員が保護者へ速やかに連絡する体制も整っており、安心して過ごせる環境が確保されている。生活習慣の目標は確認表として個人面談時に保護者へ渡し、時計を読んで行動することや、鍵の管理など自立に向けた取り組みが行われている。現在はトイレ改修工事により遊び場所が制限されているが、職員は安全面に気を配り子どもたちは状況を理解し、落ち着いて過ごしている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている		○非該当
評価項目3の講評			
<p>子どもたちが学童に通うことが楽しみになるよう、行事や継続的な遊びを取り入れている</p> <p>行事では、年間計画で立てられた昔遊びや運動遊び、工作などを自由参加の形で取り入れている。児童館と関わるイベントも毎年実施し、児童館祭り等が行われた。体育館でのスポーツや遊びについては、子どもたちの意見を取り入れながら内容を決めており、自分の興味や関心に応じて主体的に参加できるよう配慮している。室内で遊びたい子どもは、工作や編み物などを行っている。編み物は人気がありマフラーやポシェットを自分で作るなど、継続的に日にちをかけ、作品を仕上げる達成感を味わうことができおり、クラブに通うことが楽しみになっている。</p> <p>行事の実施により子どもの新たな姿を引き出し、自信につなげるよう援助している</p> <p>クラブでは、子どもたちが日々の活動に楽しみや刺激を感じられるよう、行事の企画や運営に工夫をこらしている。行事を通して挑戦する気持ちや達成感や成功体験を味わえるよう計画されている。控えめな子が普段とは違う姿を見せてくれることもあり、行事の取り組みの経験が子どもたちの自信につながっている。活動の内容については、子ども同士で意見を出し合いながら一緒に考える機会があり、「もう一回やりたい」「新しい遊びをやってみよう」といった声にもできる限り応えるようにしている。職員は子どもたちの思いや発想を大切にしている。</p> <p>家庭とはおたよりを通して工作材料の依頼をするなど、理解を得るよう取り組んでいる</p> <p>行事の準備や実施にあたっては、保護者の理解と協力を得るために、おたよりで子どもの様子を伝えたり、帰りの会で必要な物を家庭に伝えるよう促したりしている。材料が必要な場合には、ポスターなどを使って家庭からの持参をお願いするなど、丁寧な働きかけが行われている。また、PTA主催の祭りでは昔遊びをテーマにした学童クラブの店を出し、保護者が参加することでクラブへの理解が深まっている。長期休み中の昼食後に、ビデオ鑑賞の時間を設けているが、苦手な子は別室で過ごせるよう配慮しており、個々の家庭の考えに柔軟に対応している。</p>			
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している		○非該当
評価項目4の講評			
<p>子どもたちが進んでクラブに通い、楽しく安心して過ごせるよう支援している</p> <p>年間計画に基づく行事に加え、日々の活動内容を柔軟に考案し、子どもが自ら進んで通いたくなる環境づくりに努めている。「わが子が学童に行きたくない」という保護者からの声があった場合には、職員が子どもの様子を注意深く観察し、遊びの紹介や共に遊ぶことを通じて、子どもの興味関心を広げる支援を行っている。また、「毎日楽しかった」と感じて帰宅できるよう、困りごとの解決に向けた対応や、やりたくないことを無理にさせず、遊びの選択肢を広げる工夫がなされており、子どもが安心して自分らしく過ごせる環境が整えられている。</p> <p>毎日の予定をホワイトボードに記載し、子どもたちが常確認できるようにしている</p> <p>日常の遊びやおやつ時間、学習の時間など、子どもたちが見通しをもって生活できるよう配慮している。毎日の予定はホワイトボードに記載され、子どもたちが確認している。予定の変更があるときには2、3日前から子どもたちに周知し、急な変更がある場合はホワイトボードと口頭でも呼びかけている。校舎の改修工事などで遊び場が変わる場合も事前に説明することで、子どもたちが戸惑わないよう配慮している。遊びや運動のメニューには子どもたちの声も反映されており、自分の好きなことに取り組める時間があることで、主体的に過ごす姿が見られる。</p> <p>二部屋を有効に使い、それぞれの場所の使い方が工夫され、子どもたちに周知されている</p> <p>室内の遊び場は3階のBOP室と2階のプレイルームの二部屋で構成されている。3階ではおやつ提供のため、子どもが集中して混み合う時間帯には、すいているプレイルームへの移動を声かけて促している。けがやトラブルを防ぐため密を避ける工夫を行い、時には学年で部屋を分けるなど柔軟な対応も行われている。座卓が足りない場面では、子ども同士が譲り合って使えるように促し、協力する姿勢を育む工夫も見られる。新BOPは放課後子供教室との一体運営により高学年との交流も可能で、異年齢の関わりを通じて遊びの幅が広がっている。</p>			

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>副校長を窓口として教諭や職員と情報交換を行い、小学校との信頼関係が築かれている</p> <p>副校長との連絡をはじめ、教諭や主事、図書室の司書なども情報交換をしている。担任とも時間が合えば話をしている。司書とは本の紹介や工作など教えてもらう機会がある。年2回の連絡協議会では、学童クラブの活動方針を伝えるとともに、学校への協力をお願いしている。日常的にも学校側から注意事項の連絡が入り、学年ごとの名簿の共有や引き渡し訓練などを通じて、学校との信頼関係を築いている。しかし、下校時間帯に起きる天候急変の緊急事態の対応において、連携がうまく取れなかったケースもあった。対応策について今後の改善が期待される。</p> <p>保護者と連携し、学校に通えていない子どもにも新BOPを居場所として提供している</p> <p>不登校などの課題を抱える子どもには、学校と情報を共有しながら、その子の気持ちに寄り添った支援を行っている。例えば、午前中の静かな時間に受け入れて居場所としてもらい、「友達と過ごしたい」という希望もかなえたことで、学校にも行けるようになったこともある。学校での悩みを聞いてほしいという声にも丁寧に答え、保護者だけが相談に来る場合にも対応している。学校に行かないことを不思議に思う周囲の子どもには「おうちの人と話し合っただけ」と伝えるなど、子どもに理解しやすい説明を行っている。本人が安心できる対応を心がけている。</p> <p>障害のある子どもについては、支援学級の担任や関係機関と連携して援助している</p> <p>支援学級の子どもが一人でクラブ室に来ることが難しい場合は、支援学級の担任が入り口まで付き添い、その日の様子を職員に伝えることでスムーズに引き継がれている。落ち着かない様子が見られる場合には、お気に入りの物を用意するなど、子どもに寄り添った対応をしている。障害や養育環境に課題を抱える子どもへの支援にあたっては、保護者を介して教育・福祉・医療などの関係機関と連携を図っており、ケース会議への参加や情報提供などを通じて、子どもの状況に応じた支援体制が整えられている。支援級の担任との連携も日常的に行われている。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りで配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>おやつ時間を好きな友達と過ごし、基本的な生活習慣を教える場として捉えている</p> <p>子どもがおやつ時間を楽しく、落ち着いて過ごせるような環境作りの配慮がなされている。好きな友達と一緒に食べることができるが、騒ぎすぎないように静かに過ごすように指導もしている。おやつ時間を基本的な生活習慣を身につける機会と捉え、手洗いや挨拶、ごみの分別なども教えている。提供方法については原則として学年別に対応しているが、授業終了時間が同じ場合には到着順で柔軟に対応するなど、子どもの状況に応じた工夫が見られる。こうした取り組みにより、子どもたちは安心しておやつ時間を楽しむことができている。</p> <p>おやつは、果物や調理品など種類が豊富で、子どもたちの楽しみとなっている</p> <p>おやつは週に一度、クラブに届けられ、季節の果物などは近くの青果店から届けられている。果物は手順書に従い衛生面にも十分配慮して職員が切り分けることもある。月に数回、調理品も届けられるなど種類も豊富で、ほとんどの子どもが喜んで食べている。足りない、多すぎるといった子どもや保護者からの声にも柔軟に対応している。お代わりを希望する子には追加で提供するが、食べすぎと判断した場合は職員が制限している。おやつを食べたかどうかの確認は、子ども自身が表に記入する約束となっている。</p> <p>食物アレルギーの子どもに細心の注意を払い、安全に配慮した提供を心掛けている</p> <p>食物アレルギーのある子どもについては、調査票をもとに保護者と面談を行い、学校に提出されている生活指導票のコピーも活用しながら、情報を正確に把握している。成分表は保護者も確認しており、必要に応じて除去食や特別食を用意し、提供前にも再度確認するなど、安全に配慮している。おやつを食べない子どもや、遊びに夢中で食べに来ない子どもについては、本人の意思を尊重し無理に促すことはせず、個々の状況に応じた柔軟な対応をしている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもたちのけが予防のためのルールを設け、子どもたちにも周知して理解を促している</p> <p>子どもたちがけがの予防を意識できるよう、職員は日頃から声をかけている。外遊びにおいては、ブランコの使用を控えることや首に物を巻かないこと、長靴で遊ばないことなど、安全面に配慮したルールが設けられている。上り棒の高さ制限なども含め、子どもが無理なく安全に遊べるようにしている。室内では走らないよう促し、階段での遊びを禁止するなど、事故防止に向けた指導も徹底されている。万が一けがをした場合には、速やかに応急処置を行い、特に首から上のけがについては保護者に連絡を入れることになっている。</p> <p>子どもの健康状態を確認し、体調不良の時は横になって休める場所を確保している</p> <p>クラブでは、子どもが自分の体調に気づき、適切に伝えられるよう指導を行っている。職員も日々様子を観察しながら、具合が悪そうな子どもには声をかけるなど、きめ細やかな対応がなされている。体調不良時には事務室に簡易ベッドを設置し、休める場所を作っているが、複数の子どもの体調不良時になった場合、保護者の迎えまでの休養スペースの確保に課題もある。現在、医療的ケア児の利用はないが、受け入れに備えて研修やマニュアルを整備しており、必要に応じて関係機関との連携や、看護師から助言を受けることができるようにしている。</p> <p>職員が帰り道を見送り、防犯や交通指導も行うなど、帰宅時の安全に配慮している</p> <p>一人帰りの子どもたちの帰宅経路が二方向に分かれるため、夕方5時以降は、帰る方向に合わせて職員が門から決められたポイントまで見送っている。帰り道で地震や災害が起きたときや、鍵を忘れたときなど、困ったことがあれば学童に戻ってくるよう伝えている。子どもたちが帰り道で不安にならないような声かけをしている。また、安全教育の一環として、近くの交番の警察官が来て、不審者への対応や交通安全について話をしてくれる機会を作っている。警察官もクラブ運営に協力的であり、子どもたちが興味を持てるよう楽しく話をしてくれている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者との日々のやり取りを大切に、信頼と安心の関係を築いている</p> <p>日ごろからお迎え時の声かけや個人面談、手紙でのやり取りなどを通して、保護者との丁寧な関わりが行われている。お迎え時には、児童指導が欠かさず声をかけ、日々の様子を伝えながら信頼関係を築いている。出欠の確認には専用のシステムを活用し、相違があれば電話で確認するなど、状況に応じた柔軟な対応も行っている。特に伝える必要がある場合には、電話や手紙など複数の手段を使い分け、確実な情報共有に努めている。こうした日常的なやり取りの積み重ねが、保護者との円滑な連携と安心につながっている。</p> <p>子どもの様子を伝える工夫や交流を通して、保護者と職員が支え合う関係を築いている</p> <p>毎月、お便りを発行し、保護者に行事予定やお知らせなどを伝えている。手書きのイラストを添えるなど、子どもや保護者に親しみを感じてもらえる工夫もされている。また、夏休みの活動の様子や子どもたちの中で流行している遊びなどを紹介する不定期便もあり、日々のクラブでの子どもたちの姿を伝えている。さらに、保護者が企画する講演会などに職員も参加し、互いの理解を深めながら信頼関係を築いている。こうした双方向の関わり合いの積み重ねにより、職員と保護者の温かく協力的な関係が形成されている。</p> <p>確認作業を効率化することで、子どもへの支援がより手厚くなると考えられる</p> <p>子どもの出欠確認は原則として連絡システムで行われているが、未入力や情報の相違がある場合には、電話連絡や直接確認など、状況に応じて柔軟に対応している。土曜日の育成や時間延長など特別な対応が必要な場合にも、事前に連絡を受けて対応している。こうした確認作業には労力もかかることから、今後は確認作業の効率化を検討し、職員が子どもたちにより多くの時間をかけて関わられるようにしていくことが期待される。連絡システムの使用方法について保護者に定期的な周知を行うなど、取り組みの進展に期待したい。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>児童館のお祭りに参加し、子どもが主体的に活動する機会を設けている 児童館のお祭りに毎年参加し、クラブとしてお店を出している。企画段階から子どもたちの意見を取り入れ、どのような活動をしたいかを一緒に考えることで、子ども自身が主体的に関わる機会を確保している。継続した取り組みであるため、子どもたちは参加を楽しみにするとともに、内容の工夫も見られる。夏休み頃から声をかけ準備を進める過程も学びの一環として取り入れられ、当日は子どもたちがお店当番として役割を担うことで、地域との関わりを体験しながら生活の幅を広げることができている。</p> <p>子どもが地域活動に参加し、保護者や大人と交流しながら成長している 学校内で行われるPTA主催のフェスティバルに参加し、昔遊びのコーナーを職員が担当するなど地域活動に関わっている。当日は保護者やPTA、学校職員と顔を合わせる機会となり、子どもたちは身近な大人との交流を通して社会性や協働性を育む場を得ている。土曜日午後の開催に合わせ、学童クラブに来る子どもについては事前に保護者と連絡を取り、安心して参加できるようにしている。子どもが主体的に活動しながら地域とのつながりを体験できる環境が整っており、地域全体で子どもの成長を支えている。</p> <p>連絡協議会を通じて、学童クラブと地域団体が情報共有し、協力体制を整えている 連絡協議会には学校、PTA会長、民生児童委員、主任児童員、父母会、遊び場解放委員会、社会福祉協議会等が参加し、新BOPからは、運営方針や活動の状況を報告している。各団体からは学童クラブとの関わりや今後の活動に関する意見が出され、情報が共有されている。また、学童クラブの活動を理解してもらう機会ともなっている。こうした会議を通して、学童クラブと地域の各団体が協力する体制が整っている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル①	運営層がリーダーシップを発揮しながら、まとまりのある職員集団を作っている	
内容①	クラブでは、児童館長、事務局長、児童指導らが運営をリードしている。その中でも、児童指導2名は経験も豊富であり、リーダーシップを発揮しながら、指導員全体が方向性を共有し、業務に邁進できるようにしている。今回の職員自己評価でも、組織運営に対する職員の肯定的な回答やコメントが多く寄せられている。毎月のロングミーティングには、会計年度任用職員である指導員も参加し、日々の活動の振り返りをしながら、より良い運営や子どもへの関わりについて議論を重ねている。まとまりのある職員集団として、子どもへの支援に注力している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	あそびの中で、子どもたちが自分の意見や気持ちを伝えられるよう支援している	
内容②	昨年までは職員が決めた遊びが中心だったが、年度末の振り返りを経て、体育館での自由遊びにも子どもの意見を取り入れるようになった。時間や人数を調整しながら、集団遊びを継続することでルール理解が深まった。高学年の子どもが遊びをリードする姿も見られ、異年齢の関わりも自然に生まれている。自由遊びや集団遊びの時に子どもたちが話し合う時間を設けた結果、自分の気持ちを言葉で伝えられるようになり、やりたいことに挑戦する達成感や自己肯定感の向上につながっている。こうした子ども達の様子は、毎日のミーティングで共有されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル③	職員は、ひとりで帰宅する子どもたちが安全に帰れるように必要な指導をしている	
内容③	帰宅時には門から道の途中まで職員が見送り、安全に帰れるよう配慮している。災害や不審者に遭遇した場合や自宅の鍵を忘れた際には、クラブに戻るよう指導し、一人で道路を歩く子どもたちが自ら危険を予防・回避する力を育てている。さらに、毎年近隣の交番から警察官を招き、不審者対応や交通安全についての指導を受ける機会を設けており、特に1年生は全員が参加している。近隣で事件が発生した際には区からの連絡を受け、全児童を保護者迎えとするなど、迅速かつ的確な対応が取られており、安全確保への意識の高さがうかがえる。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	区の運営方針チェックリストを活用して職員が振り返ることで、課題を共有し支援の充実やチーム連携の強化につながっている
	内容	区の方針や目標に沿ったチェックリストを各職員が持ち、学期に一度程度、日ごろの取り組みを振り返る機会として活用している。この取り組みにより、職員は自身の実践を意識的に見直し、支援の質向上につなげることができている。また、児童指導が結果を集計することで、個々の職員の取り組み状況が全体として把握され、現状や課題を共有しやすくなっている。この仕組みによって、職員間の意識の統一やチームとしての連携が深まり、日々の支援をより充実させる基盤となっており、実践・振り返り・次への課題の流れができている。
2	タイトル	入会説明会や日常の配慮を通し、保護者が安心できる環境を整え、子どもや保護者の不安に寄り添う丁寧な対応が実践されている
	内容	入会説明会は土曜・平日、午前・午後・17時以降など保護者の都合に合わせて開催している。説明会では入会後の生活や保護者への願いを具体的なエピソードとともに「入会のしおり」で説明し、保護者が自分事としてイメージできるよう配慮している。入会後はお迎え時に部屋まで入ることもでき、子どもの様子を丁寧に伝え信頼関係を深めている。遊びの場面では上級生との体力差を考慮し1年生だけの時間を設け、子ども同士のストレス軽減にも工夫されている。随時相談に応じる姿勢と配慮により、不安に寄り添う丁寧な対応が実践されている。
3	タイトル	職員一人ひとりの意見を尊重しながら働きやすい職場環境を作り上げており、職員の学びやキャリア形成も支援している
	内容	児童指導を中心にチームとして連携し、意見交換を重ねながら子どもに関わっている。日々のミーティングでは、活発な議論を通して対応方針を共有している。また、指導員だけでなくプレイングパートナーの意見も尊重し、「本日の振り返り」で改善点や提案を聞き取り、活動の充実につなげている。職員間の人間関係は良好で、働きやすい職場環境が維持されている。また、勤務形態を問わず全職員が研修を受講できるよう体制を整えており、職員の学びを運営に活かしている。さらに、指導員から児童指導を目指す職員のキャリア形成も支援している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	人気のある行事を大切にしながら、子どもたちに新しい体験の機会を広げるため、行事の内容や運営の方法を見直していくことが望ましい
	内容	子どもの意見や参加の様子を反映し、学校での活動や人気のある遊びを取り入れながら行事を企画している。子どもの関心を大切にすることで、意欲的な参加につながっている。しかし、人気の行事に偏ると新しい活動を取り入れる余地が少なくなる。従来の行事は子どもに安心感を与える一方で、新しい体験や参加の広がりには限界がある。したがって、人気の遊びは日常に取り入れつつ、新たな種目や工夫を盛り込むことが望ましい。さらに、職員間で現状や課題を共有し、行事の内容やねらいを見直すことで、子どもの新たな姿を引き出すことが期待される。
2	タイトル	保護者同士が交流する機会を検討するなど、クラブへの理解促進を促すとともに、地域での子育て支援のつながりが深まることが期待される
	内容	個人面談やお迎え時の会話など、日常的なやり取りを通して個々の家庭と良好な関係を築いている。また、保護者代表を通じた連絡協議会での意見交換も行われている。一方で、3月の入会説明会以降、子どもたちの集団としての遊びの様子や成長を保護者に伝える機会は設定されていない。そのため、保護者と学童での生活を共有したり、保護者同士が交流したりする場が限られている。保護者同士が顔見知りになり、地域の子育て仲間としてつながりを持てるような機会について検討し、クラブと家庭、地域がより一体となった支援体制の充実が期待される。
3	タイトル	学校を始めとする関係機関との連携を強化しながら、より実効性の高い防災・安全対策を実施していくことに期待したい
	内容	クラブでは、「新BOP運営基準」に基づき、年2回以上の避難・消火訓練を実施するなど、災害や事故へ備えている。安全対策マニュアルには災害時の対応等が明記されているが、特に水害リスクの高い立地であることから、さらなる防災強化の必要性があると思われる。また、学校等の関係機関との連携体制の強化も課題と思われる。例えば、不審者対応策として東門を閉鎖し西門のみを使用するなどの取り組みを進めているが、運用の徹底には改善の余地がある。今後も学校等と協力し、より実効性の高い防災・安全対策に取り組んでいくことが期待される。